



Report 3 はっばの日に吾妻山探検 第25回グリーンラリー

吾妻山グリーンラリーが8月8日『はっばの日』に開催され、鳥取県をはじめ市内外から37人が参加しました。

これは、吾妻山の大自然と触れ合うことを目的に比和地域で考えられた競技で、樹木の名前を調べながら吾妻山を散策し、設定時間でのゴールを目指します。

参加者は、比和自然科学博物館で樹木について学習した後、吾妻山へ移動し、約2.5キロのコースを設定時間2時間10分でのゴールを目指しスタート。競技が始まると、樹木の名前を懸命に調べる親子連れの姿があちこちで見られました。

参加者は「街中とは別世界。水も冷たい」と、大自然を満喫し、日ごろのストレスを解消していました。



▲葉を調べる参加者

Report 4 中学生が自分の思いを言葉に込め発表 備北地区中学生意見発表会



▲参加者全員で

備北青少年健全育成連絡協議会が主催する備北地区中学生意見発表大会が8月20日、庄原市ふれあいセンターで開催され、庄原、三次両市の中学校計19校から38人が参加しました。

この大会は、毎年開催され今回で26度目になります。

生徒は250人の聴衆を前に、自ら決めたテーマをもとに自分の考えを5分程度にまとめて発表。部活動や家族、地域のことなどについて幅広い意見が発表されました。

佐々木悠人くん(東城中2年)は「大勢の前で緊張したけど自分の思いを伝えられてよかった」と話していました。

Report 5 農業体験で高野ファン拡大を目指す たかの体験「とうもろこしと枝豆の収穫体験」

高野ファンを増やし定住者が増えるきっかけをつくる体験イベントの第1弾「とうもろこしと枝豆の収穫体験」が8月17日、上高自治振興区の主催で行われました。

このイベントは、農業体験を通じて高野の魅力を伝え、交流人口を増やし、定住に結びつけようと企画されたもので、58人(うち51人が市外)が参加しました。

イベント開始と同時に、目当ての場所へ移動した参加者は、5アールほどの畑に植えられたみずみずしいとうもろこしをうれしそうにもぎ取っていました。とうもろこしは開始後1時間足らずで、あっという間になくなり、大盛況。

事務局で地域マネージャーの宇山勝守さんは「第1弾としては上々の滑り出し。今後は、宿泊や地域行事をからめたメニューを企画・実施していきたい」と意気込んでいました。



▲枝豆を収穫する参加者

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1 トマトでつながる人の輪、地域の輪 道後山高原トマト倶楽部「収穫祭」

道後山高原トマト倶楽部主催の「収穫祭」が9月7日、西城町三坂の道後山高原で行われ、市内外から約20人が参加しました。

同倶楽部は、三坂の土地、気候と相性が良いトマト品種「麗夏」を多くの方に知ってもらいたいと、春の「定植祭」から今回の「収穫祭」までの一連の催しを企画。

まずは、イベントのメインであるトマトケチャップづくりに挑戦。参加者は、真っ赤な完熟トマトを湯むき、ざく切り、裏ごしして下ごしらえ。寸胴鍋で煮込み始めるところまで調理を行いました。その後トマトハウスへ移動しトマトを収穫。ナスやオクラ、かぼちゃなどさまざまな野菜がもぎ取れるとあって、子どもから大人まで夢中で収穫していました。

収穫後は、参加者全員で作ったピザと一緒に、トマトと地元産品を使用したランチやデザートで庄原の味覚を堪能。煮込んだトマトケチャップは全員で味見して持ち帰りました。

参加者からは「トマトの幅広い食べ方に驚いた。我が家でも麗夏を栽培してケチャップ作りに挑戦した

い」、「アットホームな雰囲気で、参加者全員が昔から知っている人ようだった」という声が聞かれ、地域や年齢を超えて楽しい時間を過ごしていました。

同倶楽部代表の栃木明美さんは「トマトや野菜への親しみが、提供者・生産者への親しみにつながったと思う。来年もまた企画したい」と収穫祭の成功を喜んでいました。



▲トマトケチャップづくりの様子

Report 2 庄原から「花と緑のまちづくり」を発信 第1回さとやまガーデンサミット



▲石原さんの寄せ植えパフォーマンス

庄原市ふるさと大使であり世界的ガーデナーの石原和幸さんを招いて9月14日～16日、庄原さとやまガーデンフェスティバルが国営備北丘陵公園で開催

されました。そのシンボル行事として9月14日、「第1回さとやまガーデンサミット」が開かれ、約200人が参加しました。

西日本各地で「花と緑のまちづくり」に取り組んでいる三田グリーンネット(兵庫県三田市)、善通寺ガーデンクラブ(香川県善通寺市)、日本庭園由志園(島根県松江市)と、庄原市のしょうばら花会議がそれぞれの活動を発表しました。

その後、石原さんをコーディネーターにパネルディスカッションが行われ、活動を継続していく秘訣や、

花と緑で地域を盛り上げる取り組み、サミットを機に各地が連携していくことなどについて意見が交わされました。

サミットの中で、石原さんが寄せ植えパフォーマンスを披露。直径約1mの大きな鉢に秋のさとやまをイメージした寄せ植えがあっという間に完成し、観衆からは歓声が上がりました。

参加者からは「私もまず自宅の庭から花いっぱいにしていきたい」「各地のすばらしい取り組みは学ぶべき点が多かった。実際に行ってみよう」との声が聞かれました。



▲パネルディスカッションの様子



Report 9

認知症について楽しく学ぶ 放課後児童クラブが認知症サポーター養成講座開催



▲寸劇で認知症を楽しく学ぶ

東城・小奴可・八幡放課後児童クラブの児童66人を対象にした「認知症サポーター養成講座」が8月8日、こどもの館で開催されました。

この講座は、地域で暮らす認知症の人やその家族を応援する「認知症サポーター」の養成を目的にしたもので、研修を受けた病院や介護施設などの職員で構成されたキャラバ

ンメイトが講師となり、全国の学校や企業などでも幅広く行われています。

この日、児童たちは「認知症」について話を聞いた後、寸劇を見たりした後、〇×クイズに参加して、認知症とはどのような病気かを知り、どのように手伝えればよいかを楽しく学びました。

講座を終えた児童たちは「おじいちゃん、おばあちゃんに優しくしてあげよう」「笑顔で優しい声をかけてあげたい」などと話していました。



▲〇×クイズ

Report 10

伝統の舞を地域で継承 口和中学校神楽同好会定期公演



▲伊吹山の場面

口和中学校神楽同好会の定期公演が8月24日、口和自治振興センターで開催され、町内から約150人が観覧に訪れました。

同会は結成時から毎年1回公演を行っており、今回で26回目。

5月から毎週月曜日に練習を重ねてきたメンバー10人は、5つある演目を、時に舞い手として、時に楽団として出演し、観客の声援を受け、約4時間の公演を無事務めました。当日は同会の卒業生や常定神楽の継承活動を続けている戸山会のメンバーも裏方として加わり、公演を盛り上げました。

観客は「中学生の舞いとは思えない神楽だった」と興奮気味に話していました。

出演した生徒は「少ない人数だが、今後も頑張って続けていきたい」と笑顔を浮かべていました。

Report 11

JR備後庄原駅前ににぎわいを 「おっ！庄原駅前フェスタ」が開催

地域住民や事業者などでつくる庄原駅前周辺地区まちづくり協議会が主催する「おっ！庄原駅前フェスタ」が9月20日、JR備後庄原駅周辺で開催されました。

このイベントは、7年後の完成を目指して整備が進められている「土地区画整理事業」を知ってもらい、駅前周辺のにぎわいづくりにつなげようと同協議会が企画しました。

当日は、駅舎前のスペースや空き店舗に出張店舗がお目見えし、また備北交通㈱「まごころツアー感謝祭」も同時開催され、駅前周辺は多くの人でにぎわいました。

駅舎の待合室で懐かしのレコードを楽しむ蓄音機コンサートには、1部2部合わせて100人を超える人が集まり、100年前の蓄音機の音色に酔いしれていました。

同協議会の西田学会長は「庄原駅前ににぎやかになってほしいという願いがある。人が集まれば魂も吹き込まれる。今回空き店舗に出店いただき活気が生まれた。こうした活用がもっと増えればにぎわいも生まれてくると思う。7年後には東京オリンピックも開催されるので一緒に盛り上げたい」と話していました。



▲駅舎の待合室で蓄音機の音色を楽しむ人

Report 6

体験を通じて農業の大変さを学ぶ 総領保育所が稲刈り体験

総領保育所の子どもたち31人が9月18日、地元の山根啓荘さんの田んぼで稲刈りを体験しました。

雲一つない快晴のもと、園児たちは地域の方に鎌の使い方や稲を刈るコツを教えてもらいながら、4アールの田んぼに黄金色に育った稲を元気よく刈り取っていきま

した。作業を終えると、地域の方から刈り取った稲がお米になるまでの流れを教えてもらいました。

総領保育所の吉原弘美所長は「5月の田植えから始まり、かかし作り、今回の稲刈りと、農業を体験して子どもたちも農業の大変さを感じてくれたはず。これからも農業に触れる機会を作っていきたい」と話していました。



▲稲を刈り取る園児

Report 7

広島と鳥取両県の知事が高野で意見交換 第3回鳥取・広島両県知事会議



▲意見を交わす平井鳥取県知事（左）と湯崎広島県知事

湯崎英彦広島県知事と平井伸治鳥取県知事による鳥取・広島両県知事会議が8月23日、高野町のふるさと村高暮を会場に行われました。

この会議は共通する政策課題などについて認識を深め、連携を図り対応していくことを目的に両県で交互に開催。両知事は会議に先立ち、道の駅たかのを視察。「雪室」などの施設や「高野の逸品」の取り組みなどについて、道の駅スタッフから説明を受けながら見学しました。

会議では中国地方の広域連携や高速道路などのネットワーク整備の促進、観光連携などについて意見を交わしました。



▲道の駅たかのを視察

Report 8

地域防災力の向上を目指す 上谷自主防災会が防災訓練を実施

上谷町の上谷自主防災会は9月1日、防災の日にちなみ、地域内で防災訓練を実施し、会員約40人が参加しました。

訓練は、大雨による土砂災害の危険性が高まったことを想定し、市の避難勧告発表を受けて実際に避難を行いました。

まず、市から連絡を受けた藤川廣明会長が6つの集落の班長に連絡し、班長は会員に連絡。連絡を受けた会員は集落ごとに決められた場所へ一時避難し、そこから集団で広域避難場所である、上谷コミュニティーセンター（いきいき館）へ避難しました。

そのあと、「災害への備え」をテーマに行われた講演会では、8月30日から運用が開始された特別警報について市の職員から説明を受けました。近年、各地

で甚大な自然災害が発生していることもあり、参加者は真剣に耳を傾けていました。

藤川会長は「訓練を通じて、いざというときの行動力が身につく。知識の向上にもつながり大変有意義な訓練になった」と話していました。



▲特別警報の説明を真剣に聴く参加者